

「税」の現状

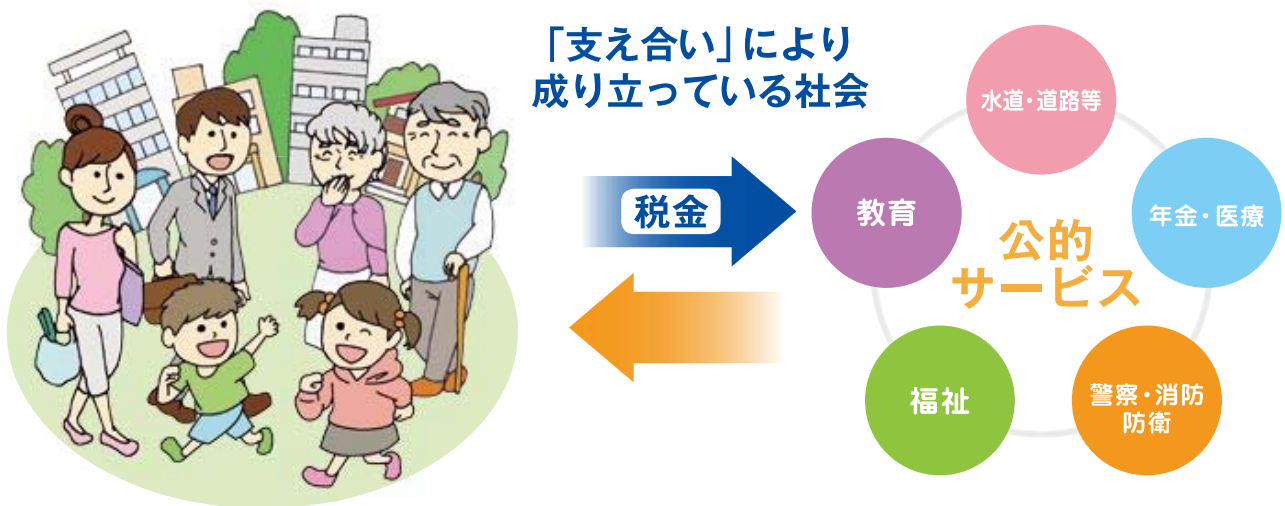
Q1 私たちはなぜ税金を納めなければならないの？

年金、医療などの社会保障・福祉や、水道、道路などの社会資本整備、教育や警察、消防、防衛といった公的サービスは、私たちの豊かな暮らしには欠かせないものですが、言うまでもなく、その提供には多額の費用がかかります。

また、こうした公的サービスは、例えば、社会保障や教育など、費用負担が可能な人への提供のみでは社会的に不適当なものや、警察や防衛のように、特定の人だけのために提供することが困難なものなど、一般に、市場の民間サービスのみには依存すると、必要な量・水準のサービスが提供されないおそれがあるものです。

このため、こうしたサービスの費用を賄い、公的に実施するためには、皆さんから納めていただく税を財源とすることが求められます。

このように、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくため、この費用を広く公平に分ち合うことが必要です。まさに、税は「社会の会費」と言えます。



また、市場経済による所得等の分配は、個人の努力以外の、例えば、生まれた環境や遺産、どういった点に能力を持っているか等の違いにも影響を受けるため、社会的に見て望ましいものになるとは限りません。そもそも、同じ能力を持つ人同士が、同じ努力をしたとしても、時代背景や社会環境、時には運によって、大きな成果が得られることもあれば、成果を得られないこともあるかも知れません。こうした状況に対して、税制では、所得税や相続税に累進構造を盛り込むこと等を通じ、所得や資産の再分配を図り、許容しがたい格差の固定化といったことが起こらないようにすることも求められています。

【税制の役割】

財源調達機能	税制は、上記のような公的サービスの財源を調達する最も基本的な手段として位置づけられており、これが税制の最も直接的かつ重要な役割です。
再分配機能	所得税や相続税の累進構造等を通じ、歳出における社会保障給付等と相まって、所得や資産の再分配を図る役割を果たしています。
経済安定化機能	税制は、好況期には税収増を通じて総需要を抑制する方向に作用し、不況期には逆に税収減を通じて総需要を刺激する方向に作用することで、自動的に景気変動を小さくし経済を安定化させる役割を果たしています。